



平成29年1月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成28年9月6日

上場会社名 株式会社きんえい 上場取引所 東
 コード番号 9636 URL http://www.kin-ei.co.jp
 代表者 (役職名)取締役社長 (氏名)丸山 隆司
 問合せ先責任者 (役職名)取締役経理部長 (氏名)好井 裕一 (TEL)06(6632)4553
 四半期報告書提出予定日 平成28年9月9日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年1月期第2四半期の業績(平成28年2月1日～平成28年7月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年1月期第2四半期	1,701	3.5	109	13.0	109	10.1	73	24.3
28年1月期第2四半期	1,643	△1.5	96	9.8	99	△3.2	58	13.1

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年1月期第2四半期	26 19	—
28年1月期第2四半期	21 07	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年1月期第2四半期	4,800	1,802	37.6
28年1月期	5,035	1,758	34.9

(参考) 自己資本 29年1月期第2四半期 1,802百万円 28年1月期 1,758百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年1月期	—	0 00	—	10 00	10 00
29年1月期	—	0 00			
29年1月期(予想)			—	10 00	10 00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年1月期の業績予想(平成28年2月1日～平成29年1月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,430	2.2	190	8.8	190	6.7	100	11.5	35 85

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無
- (3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	29年1月期2Q	2,821,000株	28年1月期	2,821,000株
② 期末自己株式数	29年1月期2Q	31,340株	28年1月期	31,288株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	29年1月期2Q	2,789,703株	28年1月期2Q	2,789,915株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料3ページ「(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、雇用情勢、所得環境の改善が進む一方、海外経済の動向が懸念され、個人消費や企業収益に足踏みが見られるなど、緩やかな景気回復基調のうちにも弱さをはらみつつ推移しました。

この間、当社におきましては、事業全般に亘って顧客満足度のより高いサービスの提供に努めるとともに、部門別業績管理のさらなる徹底を図り、集客と収入の確保に努めました。

各セグメントの状況は次のとおりであります。

シネマ・アミューズメント事業部門におきましては、映画では“ズートピア”“名探偵コナン”“信長協奏曲”“ドラえもん”“暗殺教室－卒業編－”“ファインディング・ドリー”“植物図鑑”“オデッセイ”“アリス・イン・ワンダーランド”“64－ロクヨン－”などの話題作品を上映して観客誘致に努めました。また、「あべのハルカス」の集客効果で増加する阿倍野地区への来訪者を「あべのアポロシネマ」へ誘致するため、ハルカスをはじめ近鉄グループや「あべのキューズモール」などの周辺施設と連携し、積極的な販売促進活動を展開しました。さらに、顧客基盤の充実を図るため、映画会員制度「アポロシネマメンバーズ」の会員獲得に努めた結果、会員数は27万人を超え、特に10代、20代の会員を多く獲得できました。このほか、事前のクレジットカード決済が必要ない座席予約システムの認知が進んだことや、本年6月には、計画的に推進中の座席リニューアル工事を「スクリーン7」及び「スクリーン8」において完成するなど、劇場内の快適性向上にも努力しました結果、前年同期を大幅に上回る成績となりました。また、娯楽場事業におきましても、劇場事業と一体となった集客を継続して推進いたしました結果、この部門全体の収入合計は、前年同期に比較して4.6%増の802,796千円となり、営業原価控除後では21,498千円のセグメント利益（前年同期比53.8%増）となりました。

不動産事業部門におきましては、アポロビルにおいて、順次実施しているエスカレーター更新の最終期工事として3階から5階までの3基を完了したほか、ビル内各所において美装工事及び設備更新・改良工事を推進しました。ルシアビルにおいても、地下駐車場等において防犯カメラ設備更新・増設工事を行い、より快適で安全なビルづくりを推進しました。また、劇場事業と連携した誘客活動を進めるとともに、賃貸収入の確保に向けて、ビル入居率の維持・向上を図るため、空室部分への後継テナント誘致に注力いたしました結果、駐車場収入等ビル付帯事業並びにその他の事業を含めたこの部門全体の収入合計は前年同期に比較して2.6%増の898,869千円となり、営業原価控除後では221,341千円のセグメント利益（前年同期比1.6%増）となりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は、前年同期に比較して3.5%増の1,701,665千円となりました。一方、収入に対応して営業原価が増加しましたが、諸経費全般に亘って鋭意節減に努めました結果、営業利益は109,547千円（前年同期比13.0%増）となり、経常利益は109,148千円（前年同期比10.1%増）、四半期純利益は73,054千円（前年同期比24.3%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の分析

当第2四半期会計期間末における総資産は、短期貸付金の減少等により前期末に比較して234,979千円減少し、4,800,333千円となりました。

負債は、設備関係未払金の減少等により、前期末に比較して279,004千円減少し、2,997,437千円となりました。

また、純資産は、四半期純利益の計上により利益剰余金が増加したため、前期末に比較して44,025千円増加し、1,802,895千円となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は営業活動による収入が投資活動による支出及び財務活動による支出を上回ったため、前事業年度末に比較して6,793千円増加（5.4%増）し、132,384千円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動で得られた資金は、194,430千円で前年同期と比較して39,231千円増加しました。これは、税引前四半期純利益の増加等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動で使用した資金は、171,107千円で前年同期と比較して196,095千円増加しました。これは、前期末の設備投資に係る支払を実施したこと等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動で使用した資金は、配当金等の支払により16,529千円となりました。借入金の返済を大きく進めた前年同期と比較して167,951千円支出額が減少しております。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後につきましては、「あべのハルカス」をはじめ、昨年10月にリニューアルオープンした天王寺公園エントランスエリア「てんしば」など、魅力ある施設が揃った阿倍野地区への来訪者は、高水準で推移することが見込まれます。シネマ・アミューズメント事業部門では、阿倍野地区唯一の映画館である「あべのアポロシネマ」への一層の誘客を目指し、「あべのハルカス」「あべのキューズモール」など周辺施設との共同販売促進策を推進いたします。映画会員制度「アポロシネマメンバーズ」については、新規会員のさらなる獲得に加え、メールマガジンやブログなど様々な手法による会員向けのきめ細かな作品情報を提供し、誘客に努めます。さらに、座席リニューアル工事を計画に沿って実施するなど、サービスの充実に力を注ぎます。一方、館内照明のLED化を実施するなど経費節減にも努めてまいります。

また、不動産事業部門におきましては、テナント入居率の維持向上による賃貸収入の確保に努めるのはもとより、美装工事や設備更新・改良工事を計画的に進めるなど、引き続きアポロ、ルシアス両ビルの機能向上を図り、快適で安全な環境づくりに努めてまいります。加えて、劇場事業と一体となった周辺施設との連携を推進し、両ビルへのなお一層の集客に注力するなど、安定した経営基盤の確立に格段の努力を傾けてまいる所存であります。

通期の予想につきましては、売上高は3,430百万円（前期比2.2%増）、営業利益は190百万円（前期比8.8%増）、経常利益は190百万円（前期比6.7%増）、当期純利益は100百万円（前期比11.5%増）となる見込みであります。なお、平成28年3月14日に「平成28年1月期決算短信（非連結）」にて公表した業績予想から、売上高は50百万円、営業利益、経常利益及び当期純利益はそれぞれ10百万円を増額しております。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年1月31日)	当第2四半期会計期間 (平成28年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	125,590	132,384
売掛金	103,054	85,060
商品	3,594	4,982
その他	532,380	385,340
流動資産合計	764,619	607,767
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	2,140,506	2,066,106
機械及び装置(純額)	54,047	48,268
工具、器具及び備品(純額)	78,595	70,094
土地	1,123,748	1,123,748
有形固定資産合計	3,396,897	3,308,218
無形固定資産	32,300	23,823
投資その他の資産		
差入保証金	799,785	822,714
その他	41,708	37,809
投資その他の資産合計	841,494	860,523
固定資産合計	4,270,693	4,192,565
資産合計	5,035,312	4,800,333
負債の部		
流動負債		
買掛金	112,714	122,028
短期借入金	307,500	322,500
1年内返済予定の長期借入金	6,580	3,120
未払法人税等	38,803	49,084
賞与引当金	10,900	14,300
その他	807,622	518,563
流動負債合計	1,284,120	1,029,596
固定負債		
退職給付引当金	75,708	80,553
受入保証金	1,569,729	1,556,313
資産除去債務	283,077	284,757
その他	63,806	46,217
固定負債合計	1,992,321	1,967,841
負債合計	3,276,442	2,997,437

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年1月31日)	当第2四半期会計期間 (平成28年7月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	564,200	564,200
資本剰余金	24,155	24,155
利益剰余金	1,275,502	1,320,634
自己株式	△107,246	△107,393
株主資本合計	1,756,612	1,801,597
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2,258	1,298
評価・換算差額等合計	2,258	1,298
純資産合計	1,758,870	1,802,895
負債純資産合計	5,035,312	4,800,333

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成27年2月1日 至平成27年7月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成28年2月1日 至平成28年7月31日)
売上高	1,643,911	1,701,665
営業原価	1,412,124	1,458,825
営業総利益	231,787	242,840
一般管理費	134,879	133,292
営業利益	96,908	109,547
営業外収益		
受取利息	630	469
受取配当金	133	103
保険差益	209	211
工事負担金収入	1,749	-
違約金収入	1,500	-
雑収入	516	145
営業外収益合計	4,739	929
営業外費用		
支払利息	2,477	1,323
雑支出	7	5
営業外費用合計	2,485	1,329
経常利益	99,162	109,148
特別損失		
固定資産除却損	16,180	1,389
特別損失合計	16,180	1,389
税引前四半期純利益	82,982	107,758
法人税、住民税及び事業税	41,600	46,195
法人税等調整額	△17,389	△11,491
法人税等合計	24,210	34,704
四半期純利益	58,771	73,054

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成27年2月1日 至平成27年7月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成28年2月1日 至平成28年7月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	82,982	107,758
減価償却費	167,128	176,332
退職給付引当金の増減額(△は減少)	1,719	4,845
受取利息及び受取配当金	△763	△573
支払利息	2,477	1,323
固定資産除却損	16,180	1,389
売上債権の増減額(△は増加)	19,571	17,994
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△15,456	△1,009
仕入債務の増減額(△は減少)	14,341	9,313
その他の流動負債の増減額(△は減少)	△88,897	△85,451
その他	309	470
小計	199,592	232,394
利息及び配当金の受取額	876	782
利息の支払額	△2,374	△1,280
法人税等の支払額	△42,895	△37,466
営業活動によるキャッシュ・フロー	155,199	194,430
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△169,612	△265,433
無形固定資産の取得による支出	-	△1,174
短期貸付金の増減額(△は増加)	162,010	147,771
差入保証金の増減額(△は増加)	92,346	△22,928
受入保証金の増減額(△は減少)	△45,801	△13,416
その他	△13,956	△15,926
投資活動によるキャッシュ・フロー	24,987	△171,107
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額(△は減少)	222,500	15,000
長期借入金の返済による支出	△378,460	△3,460
配当金の支払額	△27,900	△27,897
その他	△620	△171
財務活動によるキャッシュ・フロー	△184,480	△16,529
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△4,294	6,793
現金及び現金同等物の期首残高	88,170	125,590
現金及び現金同等物の四半期末残高	83,876	132,384

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間(平成27年2月1日から平成27年7月31日まで)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	シネマ・アミューズメント事業	不動産事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	767,827	876,084	1,643,911	—	1,643,911
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	767,827	876,084	1,643,911	—	1,643,911
セグメント利益	13,975	217,811	231,787	△134,879	96,908

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費(全社費用)であります。

2 セグメント利益は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期累計期間(平成28年2月1日から平成28年7月31日まで)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	シネマ・アミューズメント事業	不動産事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	802,796	898,869	1,701,665	—	1,701,665
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	802,796	898,869	1,701,665	—	1,701,665
セグメント利益	21,498	221,341	242,840	△133,292	109,547

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費(全社費用)であります。

2 セグメント利益は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。